

「カンボジアで地雷被害者と共に」

日時：11月2日（土）午後5時～午後7時 場所：セシオン杉並会議室

主催：杉並ユネスコ協会 共催：杉並区教育委員会

講師：堀内 紘子さん

講師略歴

- ・1968年から10年間アラスカ在住（アラスカ大学大学院卒業）
イエズス会のボランティア・グループの活動に触れ大きな感銘を受ける、以後、上智大学及びイエズス会の活動拠点を中心に、ボランティア活動に入る。
- ・1980年タイ、サケオの難民キャンプにて、上智大学カンボジア難民を助けるボランティア・グループのまとめ役として活動、学校の先生の教育や職業訓練をしながら難民の自立のために働きました。
- ・1981年より7年間、在日オーストリア大使館勤務。
- ・1988年よりタイのカトリック緊急難民援助オフィスの一員として、教育、ソーシャル・サービスを通じ難民の自立のために働く、タイの児童売春を目の当たりにして心を痛め、その為の活動も開始。
- ・1994年よりケニアで女性の自立を助ける活動。
- ・1995年よりミクロネシア、トラック諸島の島チュークの学校で、高校生に英語、社会、美術などを教える。
- ・1997年よりカンボジアにて活動中地雷で両足を失ったカンボジア人、トゥン・チャンナレット氏（ノーベル平和賞を受賞した「地雷廃絶国際キャンペーン（ICBL）」の一員）の講演旅行に同行し、通訳兼案内役として日本全国をまわる。
- ・2000年3月チャンナレット氏につきそってフィジーで行われた地雷禁止キャンペーンに参加。

司会者

今日は、堀内紘子さんにカンボジア・イエズス会サービスでの活動を紹介させていただきます。お手元にこういうプリントがない方は受付にありますので言って下さい。

そこに書いてあることは、説明しませんが1968年から34年間海外の至る所

でさま
ざまな活動をされておられます。特に、その間タイの難民キャンプ、ケニア、
ミクロ
ネシアなどいろいろな所で、ボランティア活動そのものの生き方を貫いている
人だと
思います。

5年間はカンボジアで地雷の撤去、救援活動、そしてICBLを代表してノ
ーベル
賞を受賞したトゥン・チャンナレット氏と一緒に活動をされ、今年の春に日本でも講演
会がありまして、通訳として参加されました。

今はカンボジアにお住まいですが、10月から11月にかけて1ヶ月だけ日本に
戻ら
れ、この機会に、全国各地でいろいろな形の活動を行うことを希望され、堀内
さんを
支援する中学校の同窓会が中心になり、ホリイモ基金が結成され、そのメンバ
ーと手
弁当で講演を行い、今日も、お忙しいなか駆けつけて頂きました。

先週、杉並区の四宮小学校で、子供達にお話をして頂きました。こうして杉
並区に
は2回も来て頂きました。今日は、7時まで時間がたっぷり有りますので、い
ろいろ
お話をうかがい、できれば後半は、率直な質問を受けていきたいと思います。

この会は7時に終わりますが、この後、7時から地下1階の交流室で、堀内
さんと
食事を摂りながら更に交流を深めていきたいと考えています。そちらの方にも、参加
御希望の方は、おすし代を実費ということで残っていただきたいと思います。

参加御
希望の方は手を上げて下さい。14名ですね。

では、堀内さんにバトンタッチしたいと思います。よろしくお願いします。

堀内紘子さん

まず皆さんに、ビデオを見ていただきたいと思います。これは、2000年にB
Sファ
ンタレントで撮ったものです。これはトゥン・チャンナレットという両足を
失った方
で、今、地雷廃絶親善大使として、世界を回っています。その方を取材したも
のです。

彼は、私達のイエズス会サービスの一員でもあります。

ビデオ・スタート

<今尚、地雷が埋まるカンボジアの村々を、車椅子で廻る一人の男、地雷の被害者を訪ねて>

のどかな平和を取り戻した村、しかし、この少女も2年前に地雷を踏み片足を失った。

地雷の被害者を支援するNGOのスタッフ、トゥン・チャナレット、元内戦を戦った兵士です。17年前戦場で地雷を踏み、両足を失いました。彼にとって、かつて

欠かせない武器だった対人地雷、未だに数百万個が埋められたままです。今も、年に1,000

人が被害に遭いその8割は農民や子供など民間人です。自ら使っていた武器に両足を

奪われ、絶望を味わったその後、チャナレットさんはNGOに加わりました。

1997年、60ヶ国のNGOの集まり、「地雷禁止国際キャンペーン」が、ノーベル平

和賞をもらい受賞式に臨みました。しかし、「地雷禁止国際キャンペーン」の最新の報

告では、世界に今尚いつでも使える兵器として、2億5,000万個の地雷があるのです。

アンコールワットを訪れる人々で賑わうシアマリアップ、観光客が地雷の被害者の

傍らを通り過ぎて行きます。

この街には、国連や世界各国のNGO、非政府組織のオフィスがありカンボジアの

復興を支援しています。その一つ、イエズス会サービス・カンボジア、チャナレット

さんはここで車椅子の製作に携わっています。両足を失い絶望していた時期、この組

織から車椅子を贈られました。その時、自分もここで被害者の為に車椅子を作ろうと

決意しメンバーになったのです。周囲にまだ地雷が残るこの街では、生きて行くため

には車椅子が欠かせません。

チャナレットさんのもう一つの大切な仕事は、地雷の被害に遭い助けを必要として

いる人達の情報を集めることです。かつて、激しい戦闘が行われたシアマリアップ、

地雷を何処に埋めたか記憶もなく危険な場所さえ不確かです。取り除くにも一

一つ

手作業で時間が掛かります。そのため、内戦の終結から時を経た今も、誤って地雷を

踏む人が絶えません。この日面会したヒューさんは、2ヶ月前、薪を採るため森に入

り地雷を踏みました。チャナレットさんは、連絡場所を聞き必要な支援を考えます。

ヒューさん一家は、入院費用を作るため水田も牛も売り払いました。夫婦と二人の子

供の生活基盤が一瞬にして奪われたのです。

チャナレットさん達イエズス会サービスのメンバーは、生活の基盤を根こそぎ奪わ

れた被害者の再出発を手助けしています。新たな土地を自らの手で開拓し生活を築く、

土地は政府が提供しています。この開拓村は、まだ移住が始まったばかりでテントの

仮住まいです。チャナレットさんが開拓村のリーダーにまず初めにアドバイスしたの

は、井戸を掘ることです。畑を耕し自立するための第一歩です。資金はイエズス会サ

ービスが負担しました。10万リエル(3000円位)は、一般の公務員の平均月収にあたり

ます。

ゼロからの再出発、障害を乗り越え、魚の行商を始めた住民に、家を建てた後、チ

ャナレットさん達は農業技術の指導や学校作りを支援する計画です。2年前に開拓の

始まった村にチャナレットさんが気になっている被害者がいます。右腕を亡くし、目

も失い、畑を耕すことができません。彼にとって自立の道は極めて厳しいのです。

数百万といわれる地雷が全て撤去されるまでには、まだ長い年月が必要です。チャ

ナレットさんが兵士になったのは、1979年ベトナム侵攻直後のことです。日々食べる

物にも困る暮らし、チャナレットさんは最低限の食料が保証される兵士になる道を選

択しました。逃げ惑う難民から一転最前線の兵士になった男たち、彼らが頼った武器

が対人地雷です。その地雷をチャナレットさんは踏んでしまったのです。

夫を勇気づけた妻は、その時お腹の中で少女が育っていました。それから3年、働くことも出来ず、難民キャンプで打ちひしがれていたチャナレットさんに転機をもたらしたのは娘の言葉でした。「パパ、お金ちょうだい、おかし買いたいの」と。「お金」？ズボンのポケットにもお金なんかない、やっぱりこの子のためにも生きなければだめだ、これが転機になる。娘の言葉をきっかけに始めたものは、車椅子の製作と英語の勉強でした。今も辞書を片手に、世界各国NGOからの報告に毎日目を通します。車椅子を通じてNGOのメンバーと知り合い、世界各国の人達が地雷の被害者を支援しながら地雷廃絶を訴えていることを知ったのです。

自分自身を訴えたいチャナレットさんは、海外へ出向き、覚えたての英語で訴え始めます。そして、世界各国のNGOが連帯して公募した地雷禁止国際キャンペーンで重要な役割を担いました。このキャンペーンは、対人地雷全面禁止条約に世界120ヶ国以上が調印するという成果を生みました。1997年地雷禁止国際キャンペーンは、ノベル平和賞を受賞しました。

夫婦には今6人の子供がいます。チャナレットさんは、海外に行く時子供達に何のために行くのか話して聞かせます。次の行き先はアメリカ、未だに対人地雷全面禁止条約に署名していない国の一つです。この大地の下に眠る地雷、世界全体では、アメリカ国務省の推定で6,000万個が埋められたままです。1年間に26,000人の死傷者が出ています。

4年前事故に遭ったこの少年は、生きて行くために学校にも行かず働いています。父親はやはり地雷を踏み死亡しました。

半月後チャナレットさんは、アメリカで多くの政治家と市民に向き合うことになりました。この日チャナレットさんは、生まれて始めてコンピューターの前に座りました。

インターネットを通じ、自分達の現状を世界に伝えようと決心したのです。地雷廃絶、
家族を守り、村の生活を守るためチャナレットさんは戦い続けます。その武器は、平和を思い描く力であり言葉です。

2000年1月7日アメリカ、アイオワ州、大統領選挙に沸くその地でチャナレットさんが訴えたスピーチです。「私は毎日、車椅子や義足を必要とする人達を見えています。家もない、水もない、仕事もない人達、そして、子供達を学校に行かせることも出来ない彼らの姿を。これが、私がアメリカの条約署名と地雷廃絶を訴える理由です。」
(ビデオ終了)

講師 堀内紘子さん

地雷の犠牲者は誰かという話をしたいと思います。
実際の話ですが、イエズス会修道会のスペインから来た神父でキーケという人がいます。彼は、子供が非常に好きで、どこの町に行っても必ず市場に行くのです。市場では子供達が物乞いをしています、大人達もしている。

そして、ある日、彼がお昼アンコールワットにあるシナムリップで市場に行き、みんなに逢いながら食事をしている時、一人の松葉杖をついた9歳の女の子が「10円ちょうだい、20円ちょうだい」と物乞いしてきたのです。「僕は、お金をあげないけどいっしょに食べよう」と言って、彼女を誘いました。彼女は「はい」といい、松葉杖を置き、ラーメンをすばやく食べました。この子は1、2年生ぐらいだろう、地雷を踏んで学校には行けなかったのだらうと考えて、「両親の所へ連れて行って欲しい」と言うと、「はい」と言って連れて行ってくれた。

車に乗って着いた所は、スラム街の掘っ建て小屋で親戚の家でした。その子の両親に、プノンペンに専用の学校があるから行かせたいと言うと、両親は「ありがたいのですが、誰が食べ物を持ってきてくれるのか」と言いました。すると彼は、心

配しな

くても私がなんとかかしますと約束しました。それで、プノンペンに戻りオーストラリ

アから来て学校を経営している校長先生に、こういう子が居ますが面倒見てく

ださい
とお願いして、OKをもらい大喜びして1ヶ月ぐらいしてシナムイクに戻った

のです。
そして、市場に行き知らせようと思ったが全然見当たらない、そこで、物乞

いをし
ている子供達に、スレイモムさん見なかったと聞くと、全然見なくなったとい

うので、
彼は家に行ったが、そこはがら空きになっていて、新しいホテルが建ち始めて

いた。
残念がった彼はプノンペンに戻り、6ヶ月ぐらいしてコンポントムの街に行っ

たので
す。

そしてまた市場に行ってみみんなに逢おうと思っていた時、「何処かにいた女

の子だ
など」スレイモムさんの姿が分かった、すぐ車から降りて、彼女に近づいて

「何やっ
ているの?」「物乞いやっている」と返事。これから両親の所へ連れてってと

いうと、
両親二人はタイ国境で働いているので今私はおばあさんと二人で住んでい

と。それ
で、おばあさんの所へ連れてってもらった、家は掘っ建て小屋で、まさにスレ

イモム
さんがおばあさんを養っていた。おばあさんに、「この子を学校に行かせたい

のです
が」と言うと「いいですよ。」と言ったが悲しそうな顔をしていた。すぐに彼

は100
キロのお米を買っておばあさんに渡して、「これで少し食べていけると思いま

す。なく
なった頃にまた持ってきますから」と言って、またいなくなると困るので、次

の日車
に乗せてプノンペンに戻りました。

その車中の5、6時間間に、どうしてこの様なことになったのかという話を聞い

たのです。スレイモムさんの家は、カンボジアでは普通の家で、家があり、畑
があり、
田んぼがあり、家畜を4頭、(豚、にわとり)4頭いるのはある程度お金持

ち、牛がい

ないとお金持ちではない、家畜の数で決まる社会です。そういう所で彼女が放牧して

いる時、地雷を踏んでしまったのです。川の側で「ドカン」という大きな音に側で畑

仕事をしていた両親がびっくりしてきて、川が近くにあったのでボートに乗せて病院

へ連れて行きました。

3ヶ月、足を切ってリハビリをして、3ヶ月で松葉杖を使って歩く訓練をして退院

しました。そして、入院費は誰が払うのか、現金がない、そこで、両親は牛、豚、家

畜を全部売りました。その時はそれで良かったのですが、こんどは足が痛みだして6

ヶ月入院した。そして、退院の時また入院費、そこで両親は、家、畑全てを売って入

院費を払いました。そしてホームレスになった。

誰が地雷の犠牲者なのか、地雷を踏んだ人だけか、そうではなく、踏んだ人はもち

ろん、家族がどうにも出来なくなる。親戚も助けようがない、村、カンボジア国自体

が地雷の犠牲者になっているのです。

私達はどうしたらいいのか。家族に道を作ってあげようか、家事交代してあげよう

か、それをしても収入がないので、お金の為に、家、家畜を売ってしまうのです。だ

から、私達が出来るのは、スレイモムさんをまず学校にやって、彼女と一緒に生きな

がら、何かいいことかを徐々に経験と実際見たことによって学び、何かいい方法を考

える、悩み、苦しみ、喜びを分かち合いながら生きて行くことが大切だと思います。

そして、まわりの人達を大切に思う気持ちが私達にすごく大切です。みなさん、マ

ザーテレサをご存知だと思いますが、マザーテレサがカルカサに行った時、カルカサ

は非常に貧しい所で、道路脇に普通の人達が生活しています。貧しい人達が、住む所

がないので住んでいる。病気の人もたくさんいる。ところが、マザーテレサがやった

ことは、まず、死を待つ家を作り、後2～3時間で死にそうな人だけを自分達の家に連れてくる。そこには、1ヶ月、2ヶ月病気で苦しんでいる人がたくさんいるのです。たくさんいるので面倒はみきれない、だから、私達の出来ることは、死にそうな人だけをシスターやボランティアの人達で連れて来る、そういう人達は、今まで屋根のある家に住んだことがなく、ベッドで寝たこともない。そういう人の体を綺麗に拭いて、着る物を綺麗なものに変えて、水や食べ物を与え、きっと初めて満腹感を味わい、そして、死ぬ前に一度でも良い思いをさせて死んでいってほしいということまで死を待つ家を作ったのです。

マザーテレサの有名な言葉ですが、「愛の反対は、憎しみではありません。愛の反対は、無関心です。」まわりの人に関心を持つことは非常に大切なことです。そして、どうしたら他人に関心を持つことができるようになるかは体験から来るのではないかと思います。

海外へ行った時、字も読めない、言葉もわからない、どうしようと思う時、地元の人から親切に、「このバスに乗り、3番目で降りるのですよ」と教えてもらうとすごくありがたいものです。私がナイロビに着いた時、何方かが迎えに来てくれるはずでしたが、1時間経っても来ないのでどうしようと思い探していました。そして、ケニアの人が、「誰か探していますか？」と、「はい、迎えに来てくれる人を探しています」、「その電話番号を持っていますか」というので「持っています」というと、「私が電話してきてあげます」と言ってくれました。着いたばかりで、電話のかけ方も知らずお金もない、そして、その人が、「1時間待つて下さい、お迎えの方がすぐ来ます」「有難うございます、1ドルありましたので、これどうぞ」というと、「結構です、私の貴

女への歓迎のプレゼントです」と受けとらなかった。

こういう親切をされた経験がありますので、私は日本で外国人が地下鉄で
きよろき

よろしていると、必ず“ May I help you ? ” と聞くのです。もし、私がそ
う経験

をしていなかったら、少し英語を知っているので、でしゃばってやって「結構
ですよ」、

と言われたら恥を掻いた、もう二度としないとなると思うのです。ところが、
今は、

分かれば嬉しい、今度は、分からない人がいるといっしょに行き、あそこの建
物です

よと教えてあげる。それは、私がしてもらって良かったので、やらせていただ
くとい

う気持ちでやっています。

地雷の話に戻りますが、対人地雷は人を殺す目的ではなく、人を傷つける目
的の出

来たものです。ということは、例えば、皆さんが兵隊で私の敵とします、私
は、皆さ

んに来て欲しくないなので、ここに10個ぐらいの地雷を埋めます。そして、皆
さんが攻

めてきます、10人が地雷を踏みます。後残っているのは20人、もし地雷が人を
殺す

武器でしたら、10人は踏んだとたんに死ぬとします。そうすると皆さんは、死
んだ人

はどうすることも出来ないので置き去りにします。これは傷つけるのが目的
ですから、

10人が踏んで傷つく、苦しんでいる。そして、皆さんは仲間ですから、両脇に
抱えて

安全な所まで連れて帰るのです。そうすると残った戦力はたったの10人です。
だから、

私は20人よりも10人の方が戦い易いということです。

私が間違えて人を銃で殺してしまったら殺人犯なのです。地雷を10個置い
て、置い

た私がいなくなって、皆さんが1～2年後に踏んで死んでも、けがしても私に
は全然

関係ないという状況です。だから「殺していいもの、傷つけていいものがあ
っていい

ものか？」という疑問はあります。そして、普通は、戦争後、壊れてないもの
は持っ

て帰りますが、地雷は壊れていなくてもだれも除去してくれない。地雷は眠れ

る兵器

と呼ばれ、皆さんが踏んでくれるまで待っている。戦争が10年前に終わった国でも、地雷はまだ皆さんを待っています。戦争の時は兵士が踏みました。戦争後は、

ほとんど民間人が踏んでいます。

カンボジアでは、電気、水道、ガスがありません。ご飯を作るにはどうしたらいい

か、野原に行き薪を集め、川に行き水を汲んでこななければならない。そうすると子供

たちおかあさんたち、彼らは薪を取りに行き踏んだと言っている。それで、野原です

から自由自在に動きますから地雷があって踏んでしまいます。

ごく最近の話ですが、自分の庭でおかあさんが野菜を取ってきてと言ったので、女

の子が行き地雷を踏んでしまったという悲劇がありました。そこには以前なかったの

ですが、洪水が運んで来たのでした。

地雷はどうやって見つけるのか、以前カンボジアには、1,000万人の所に1,000万

個ありました。今は、5～600万個だいたい半分に減りました。あるからといって、

推定ですから、カンボジアの全てを探し始めたら大変です。そこで、村として、誰か

が踏んでしまった時、まだあるかもしれないので、要注意と書いてあるが、たった1

個かもしれない、それでも地雷を除去するところに依頼をするのですが、2個あった

場合は、完全にここにあるということで、専門家をお願いをして、まず危ないので赤

いしるしをつけ周りを紐で囲みます。

地雷を1個作るのは、たったの300円か400円でできます。紙や缶の中に爆薬を入

ればできるのです。それに対し1個取り除くのには3万から4万円かかる。なぜか

というと、この地域に地雷があるとなれば、取り除くためには端から順に探っていく、

時間がかかる、除去するための訓練をしなければならない。そのために外国から専門

家を呼んで来る。その人達の給料、そして、訓練させる、探知機などのお金が

かかる。
カンボジアでは、地表には草があり土の中にはいろいろな金具などがあり、地雷と區別ができない。それで、まず草を刈ると地雷が分かり易い、そういうロボットなどを作っている。費用は千万から3千万円になる、そういうのを全部含めて割ると、3万から4万円になる。

オタワの地雷条約があり、地雷禁止、それに日本は参加しています。その場合は、絶対埋めてはいけない、造ってはいけない、輸出してはいけない、輸入してはいけない、今日本が持っている地雷を全部一定の期間に爆発させなくてはいけない。そして、各国をモニターする、カンボジアに一つ、アメリカに一つ、いろいろあるので、自分の国、日本ならば自衛隊がどれくらい爆発したか、いくら破壊したか調査して報告する。モニターともう一つ7番目の大事なことは、地雷の犠牲になった国の人々を助けることも一つの義務になっています。

カンボジアはアンコールワットで有名ですが、あまりにも自然に恵まれ過ぎた国であつたと思うのです。まず、お米を作るのが大事、雨が降ればお米が出来る。雨が降らなければ出来ない、雨待ちです。果物は亜熱帯ですから、バナナ、パパイアがこちらに成っている。池や川には魚がいる。トンデサップには1番多くの種類の魚がいる。なぜか不思議なのですが、雨がたくさん降り、池みたいになると魚が浮き始める。だから、蓄える必要がない。

カンボジアでは、働くということは食べ物を探すこと、“To work is to eat.”と
言い、自分の食べ物があつたら働く必要がない。若い30歳ぐらいの人が、何もしないで1日中いるのを見ますと、もう少し頑張つて、食べる物は出来たら倍ぐらい作り、それで儲けて生活を良くしたらいいのと思うのですが、それは私達の考えで、カン

ボジアの人は、食べ物があるから何にもしないのが望ましい。そういう社会で、恵まれ過ぎたので、お米を作る農民で一生過ごしてきた。

農耕社会ですから、身体に不自由のある人は役立たないという考えがあります。そういう社会なので、お巡りさんも、身体に不自由な人を見下す、「なんだ足がないのか、身体障害者じゃないか」という今でもそういう社会です。例えば元気な人が20歳ぐらいで地雷を踏んだとすると、すぐに自分はこの社会にとっていない者、場合によっては私を人間として見なくなると分かるわけです。地雷を踏んで片足が亡くなった人でも死にたい。そういう社会ですから、自分がなった場合は人に下に見られるので落ち込む。特にそういう人達に対して、足が亡くなっても技術を身につけて自立できればいいと一緒にやることが大切です。

私達のグループは、ほとんど障害者の人が訓練学校で学び、その1、2期生が今先生になっています。車椅子で地雷を踏んだ人を見舞うことによって「がんばって」と言った場合、私達が言うよりも親身であり説得力があります。彼自身も障害を持っていて、今は立ち直って全世界の地雷犠牲者に何かしたいという気持ちが強くなった。

カンボジアには小児麻痺がすごく多く、病気で車椅子を必要とする人がいます。全体の身体障害者のうち、60%が地雷の犠牲者ですから結構多く、車椅子もよく見えますし、身体が不自由な人をいつも見ているので、それが当たり前の社会で私達も当たり前に援助が出来る。

援助はどうあるべきか、一つの例ですが、日本政府が100万円の車椅子の援助をしてくれるという時がありました。私達、カンボジアでは車椅子といえば三輪車ですね、四輪車だと道が悪いのでつまずきやすい、三輪車ならば、でこぼこの場所でも、少し上げて乗り越えることが出来る。彼は坂などこうやって降りていく。私達はあ

れを作
っています。全てカンボジア製です。ベアリングはタイから来ていて、1台
10,000
円で作り、毎月80台作っている。10,000円の車椅子だと100万円で100台出来
ます
し、材料をカンボジアで買うとお店が儲かり、それを障害者が作り、その人の
給料に
なる。

ほとんどの人は、10,000円を出して買うことができません。国境の医療関
係、赤十
字などいろんな方が私達から買って下さる。必要な人には差し上げますが、全
部あげ
る必要はない、破産してしまいます。買ってくれるのでお互い助け合っていま
す。

日本が100万円くれるので良かったと思ったら、ステンレス製の車椅子を10
台くれ
るということでした。うれしいですが四輪車です。動きにくい、もし壊れた
ら、誰が
ステンレスを直してくれるのか、私達が作っているのは、普通の人でも技術や
道具が
あれば直すことができ、私達も簡単に直せます。援助する場合は、私達の視野
からで
なくて、地元の人がどういうものが欲しいかが大切です。

アフリカの人が言っていました「先進国、後進国、発展途上国、開発途上
国など
いろんな言葉があるが、そういう言葉は、私達（先進国）が作った言葉であ
る。」もし、
私が（先進国）、見返りを考えずに援助していたら、そういう言葉はないので
はないか。
たとえば私が、こちらに100万円差し上げて、使ってくれたら、良かったで終
わる。
ところが、政府などは見返りを考える援助が多いので、発展途上国などの言葉
が出来
たと思います。

カンボジアで困っているのは、あげる、あげる、向こうは、くれ、くれとい
う状況
があるのです。私達もいけなくて、援助をしてあげるという態度をなくさなけ
ればい
けない。カンボジアの人（発展途上国）は、何をくれるかと期待して私達に接
してく

る。何をしてあげる、何をしてくれるという心から離れて、同じ立場に立ち、人間関係を作り、一緒にいることにより喜び、必要なもの、心配なことを見ることが出来て、その人達に、希望に満ちた未来を一緒に作り出すことが大切なことだと思います。寄付は、物ではなく一緒に取り組むことが大切です。確かに物も大切です、日本の古着はまだ新しいもので良いものですし、送料も払ってもらい、たくさんいただいておりますが、そういう国は、腐敗と汚職が多いのです。そこで、税関で多くとられ、本来受け取っていただきたい所に届くものが少なくなってしまいます。

オーストラリア人が、アフリカでは蚊が多いので、固形の物を作り水に濡らして体に塗ると蚊がよってこないものを紹介し、その作り方を教えてもらい作っています。蚊と虱がたくさんいます。そして、虫のようなもので、肌が割れてそこに入る。その製品を作るのに一つの材料をどうしてもオーストラリアからもらわなければならない。がすごく高い。その人が、3~4,000ドルの物を、1,000ドルの飛行機代を出して送ってくれる。私達は作れば作るほど赤字になるが、目的は苦しんでいる人がマラリアにかからないように少しでも役に立てばと思い作っています。ところが、政府は1,000ドルぐらいの税金を、それ以外に賄賂みたいなものをよこせ、よこせと言ってくる。

お金よりも関心を持ってもらい、自分達に何ができるかという気を持ってもらうのが大切だと思います。寄付するのも皆さんが選択して下さい。でも、「何処まで使ってくれるか？」10,000円を出して、10,000円の車椅子を作ってくれる所へ出すか、実際に、20~30%しか行かないような所を指示するかということは、自分達の選択だと思います。どちらでもやっていますので、良い悪いじゃないですが、自分が苦労するの

であればどちらかを選択する必要があると思います。

私達は、全世界では極少数派です。人口は60億人ですが、その内20%の12億人が先進国です。そこに85%の富があるそうです。20%の私達が85%の富を持っている。

簡単な例で、ここに1,000円あります。私は850円でお昼を食べました。他の4人は、

残りの150円一人40円で食事をするということになるのです。こういう話をするとま

さかと思いますが、皆さんがネパールに行ったことがあるとか、インドの貧しい所に

行ったとか、アフリカに行きましたと、これで4国ですが、私達は85%持っていれば

よし、自分がよければよし、後は、開発途上国はしょうがないで終わっていいもので

しょうか。

統計を見ると、2010年で人口は68億人になります。私達先進国は、相変わらず12

億人だそうです。そして、50年後の2050年には、なんと93億人になるそうです。先

進国は、11億8,000万人ぐらいに減るそうです。開発途上国、3食を食べられない国、

電気、水道、ガスがない国の人達が、81億人になるのです。全世界で、たったの13%

にもう少し経てば10%になるのではないか、このままで、世界が動く訳がないと私は

思います。たったの10%で全てを牛耳るとは、何かが起こると思います。何も

しなくてもいいかという、たとえばの例で、日本にオイルタンカーがあり、最新の

が出来たので古いタンカーを売るとする、買った国は喜ぶ、ところが、船に悪いところ

が有り油がこぼれる、そうすると、その国は技術もお金もないので直せない。それが、日

本海だったら汚染で魚が取れないのでお金や技術を使ってきれいにすると思います。

日本は、排気ガスの少ない車が多いですが、その設備のない車がアフリカやアジア

にたくさんあります。こういう車を売っていいものか、公害で悩むとすると、私達が

助けなければならない。地雷の場合でも、作れば300円か400円、たくさん売ればお金が入る、犠牲者が出る、助けるために機械を作るということは、私達がつけて援助して物を送る分、余計な労力をしている。

戦争を見てみると、1機何億ドルという飛行機が飛んでいます。軍需産業は、戦争がないと今世界があまり良い景気にならないのだと、それは、先進国だけであり、戦争の犠牲になっているのは、ほとんどが子供たちです。カンボジアは、汚職が当たり前の国です。お金を普通に稼いで金持ちになった人がほとんどいなくて、立派な家を持っているのは、軍人、警察官、政府関係、公務員など汚職で金持ちになっている。

6,000円ぐらいの給料なのに御殿を建てられる。私達なら6,000円でどうして1億の家が建つのかと、汚職以外にないと思うのですが、カンボジア人は何も言わず、うらやましい、お金を持って立派な家を持った人は偉い人と思っている。

良い面は、仏教の国だからかもしれませんが、私が貧しいのもカルマ（運命）であるから、こんど生まれてくる時は、もう少し良い生活ができる様にとという考え方です。ポルポト派などは人を殺しています。私達なら裁判にかけて白黒つけますが、カンボジアでは、彼は亡くなって次に動物の頭を持った人で生まれてくるから、その時裁いてくれるからという寛容な態度もあります。物を盗んだらすぐ怒りますが、盗まれた方がいけないと、どうして盗まれる場所に置いてあるのか、盗みに来た場合でも、隠し方が下手だから盗まれたと諦めてしまいます。

カンボジアには教育が大事です。全体の48%の村で小学校、義務教育がないです。小学校に100人入っても、2年生で61人に、小学校を卒業する時は21人ぐらいになる。カンボジアは1200万人いまして50%が15歳以下の子供ですから、将来を担うという希望がある。15歳の子供は、戦争の時小さかったので覚えていない。今の

大人は、
そのこと自体を想像してベトナム傀儡の社会を想像して、戦争経験のある人だから、
民族内抗争とか不信感をお互いに持っていてお互いに信用することはありません。家族の構成が殺されてなくなり、ひどい状況になっています。若い人は、まだそういうことを知らないから少しは夢がある。

タイの難民キャンプで4年間指導をしていたころ、あるカンボジア人がカンボジアに戻った時、カンボジアに進出してくる会社で働けるとお金がたくさんもらえるから日本語を教えてくれないかということで、カンボジアは昼に2時間休みなのでその間に教えました。その人達が1992年に戻ってきて後で聞きましたが、タイの国境を超えてカンボジアに戻ってきた時、何も持ってなかった。難民キャンプでも勉強したので賞状をもっているし、英語・日本語・フランス語なども学んだ。難民キャンプに7～8年いた方が多いので、やることがないのでいろんな勉強をしていました。そして、カンボジアに戻り、自分の能力によって国連などの良い職を得ました。大学の先生でも100ドル、12,000円ぐらいなのに、彼らは300ドルぐらいもらい働いています。

彼らは勉強して仕事を得られ、自信がついた。子供は二人しか作らず、その子に勉強を一生懸命に教えている。氷山の一角ですが、学校を建てるのは、お金があれば簡単に1年後に建ち結果がでます。教育は見えるものでない、50年経ってもでてこない、3世代、100年かかるかもしれないが、徐々にやらなければいけない。

私は、ボランティアという言葉が大嫌いです。ボランティアは自分の意思でやることで人に宣伝する必要はなく、陰でやればよいと思います。そういう気持ちは、小さい頃から、母が、「私は頭がないので労働でお手伝いします」と、給食の当番など、他の母親が忙しい時よく代わって手伝っていました。そういうのを見て育ったの

で、上
智大学に入った時も、他のために生きるというイエズス会修道会の精神があります。
言葉で書いてあります。先生がいろんなことをしているのを見て、宗教人がすること
で私には縁がないと思い、卒業してアラスカに行き大学院に通っていました。
イエズ
ス会がエスキモーの村で学校と宿舎を運営していました。そこで、神父だけでは人が
足りないので、普通の人を公募してイエズス会ボランティアグループを作りました。
その人は、大学を卒業して2年間学校の先生をして、その経験からエスキモーの村に
行って先生をする人を見て、こういう若い人でも何か出来るのか、ということで私も
やりたいと思い少しやりました。

1979年日本に帰って、ちょうどベトナム兵がカンボジアに入って来た。その時、イ
エズス会の神父が上智大の総長さんで何かをしなければいけないとお話しになった。
その頃、上智大学でカンボジアの難民を助けようという運動があり、一組10人の学
生・神父・教授を3週間づつ送りました。送り出す際に一つお願いしたのは、「死んでも上智大学を訴えないで下さい。」サインをさせて、自分達で全部費用を出して行きました。学生では何も出来ませんが、医療と食事が大切でした。長い間歩いてきて、親
を見失った孤児が、赤ちゃんから300人ぐらいいました。そういう人の遊び相手をしていました。

私は、タイの難民キャンプで連絡係をしていました。こういう仕事をしたいと思い、
生まれて初めて、お金をいただく仕事を7年間しました。アルバイトの経験はありま
したが、厚生年金を払う仕事は初めてで7年間お金を貯めました。一方、楽しみを持
ちたいと思い、夜間学校や家庭教師で教えたりして、1988年にまたイエズス会
難民サ
ービスで（難民のいる Site 2 という所）、タイにあるカンボジア難民のサイト

2 とい

う所へ行きました。どれだけ貯まったかというのと、日本に1年帰ってきてアパートを
探し、職がなくても食べていけるぐらいです。1988年から出っぱなしで、ケニアのナイロビで、またミクロネシアのチューク島(トラック島)で活動をして、またカンボジアに戻りました。

明日、誰かが来て欲しいと言えばすぐ飛んでいける。もし、今の仕事を辞めれば無所属になり、また何か出来ることがあればそこに行くということです。

先ほどのノーベル平和賞は、「地雷廃絶国際キャンペーン(ICBL)」のグループの代表で頂きました。日本だと大騒ぎになりますが、カンボジアではノーベル平和賞を知らない人が多く関心がありません。彼らは、難民キャンプで中学1年の英語を6年間かけて覚えました。下手な英語だと悩んでいましたが、今は、非常にうまくなりました。話し始めて一生懸命努力しています。

トゥン・チャットさんが5月に日本に着て、幼稚園などで講演をした時、子供たちからの、「どうやって2階に上がってきたのですか足がないのに」そして、「いつ足が戻ってきますか」など、単純な質問に喜び、足がなくても車椅子があると。私は以前どうやって車椅子の人と歩くのか、押すことも知らなかった。彼の車椅子は、たたむことができません。車体から車輪をはずしタクシーの後ろに乗せられる、ある時、小型タクシーで乗れずに車体を入れて車輪は他のタクシーで行きました。1台は駅の北口に1台は南口に行ってしまった。待つのも大変なので降ろしました。彼が地面に立っている時に初めて気がついたのは、車輪がないと車椅子の役割をしない。そこで、車体と車輪は一緒にないといけないことを学びました。

足が無くて部屋にいるとします、外に行くのにどうしますか。誰かに背負って連れてって貰うと思います。車椅子があると自分の足になり自由に行動できる。

10,000円

を何かにあげた場合、一人の足を作ってあげたというすばらしい価値です。個人にと

っては、100万円あげるより10,000円の方がもっと価値がある。

I C B Lは、現代のすばらしいN G Oの一つの形だと思います。「地雷廃絶国際キャ

ンペーン」という一つの組織です。それにはオフィスがなく本部がないのです。

1997年ノーベル平和賞がI C B Lの中心活動家のジョディー・ウィリアムズ女史と

I C B Lの組織に与えられ平和賞の賞金は半々です。ジョディー・ウィリアムズさん

が、自分の家からEメールで全て世界に連絡しました。日本でもキャンペーンがあり

ました。カンボジアの地雷キャンペーンの主な所は、いろんな団体がありますが報告

書は私達のオフィスの1台のコンピューターで、イエズス会サービスの仕事の合間に

作成していました。オフィスを持たないのは、経営費、運営費、人材費がかからない、

そういうやり方も良いと思います。

司会者：話題が多岐に渡っていますが、何かご意見、質問がありますか。

質問

戦争は、敵が攻めてくるので地雷を埋めますが、カンボジアは、ポルポト派が政府

軍を防ぐために埋めたのでしょうか。

講師 堀内さん

埋めています。ベトナム兵に来て欲しくないなので埋めています。ベトナム側はカン

ボジア人に来て欲しくないなので埋めています。アメリカがなぜ地雷廃絶に参加しない

かという、北朝鮮と韓国の境界線にたくさんあるからです。必要なため全部何処に

埋めてあるか分かっている。地雷は記録して埋めるものです。戦争があるとお互いに

来て欲しくない自分で埋めて自分が犠牲になることもあります。まれな例ですが、

カンボジア人が戦争のためタイに逃げます。難民として、10年後に戻ってくると自分

の土地が誰かのものになっている。地雷原で行くことができない。

地雷は、最初政府が除去をしていましたが、除去した場所を汚職で軍人に売り、そ

の人は土地がきれいになり、他人に入ってもらいたくないので回りに地雷を埋める。

地雷は簡単に作れますし、お金になるので取りに行きけがをした子供もいます。アフ

ガニスタンでは、ぬいぐるみの地雷があります。それは、子供達にさわってもらいた

いからです。民族闘争で、まず子供から殺せばいつかは滅びるだろうということです。

こんなものがどうして作られているのか。地雷で苦しむのは私達だと思います。

難民キャンプで何をして、何を教えてあげることより、一緒になってすることで学

ぶことや助けてもらうことが多い。国連に入っていますので手榴弾が爆発すると、ラ

ジオから警報が流れます。「シチュエーション1」は何処かで爆発したから気を付けよ

う、すぐに出られる体制を作る。「シチュエーション2」は出来るだけ速く難民キャン

プの出口に車で行く。「シチュエーション3」は出来るだけ速く難民キャンプから離れ

る。「シチュエーション4」は防空壕に入れ、地面に伏せる。一緒に働いていますが、

危険だといって私達だけが出ていくのです。難民たちは、柵の中にいますから出てい

けない、彼らも慣れている。彼らは、私達がボランティアで働いていることを知って

いるので、危険な時は私達をすぐ助けてくれて1番安全な場所に連れていってくれる。

難民キャンプですので支給されたもので生活をしています。料理はコンロと薪でし

ている。鍋はアルミで押すと凹むようなものです。

ベトナムの難民キャンプにはクリスチャンが半分ぐらいいます。そこで、クリスマ

スケーキを作ってもらいました。どうしてこのキャンプでと思い、作り方を見せても

らいました。「何が要りますか」と言うと、「粉と砂糖と卵でいいです」。洗面器に卵を

割ってホークで泡をたて砂糖と粉を入れる。バニラエッセンス、バターなどは使いません。薪を入れて真っ赤にし、鍋を熱して油を引き紙がないのでノートの紙を使い、さっきミックスしたものをに入れて、コンロにある赤くなった炭を全部取り、余熱でケーキを作りました。タイの村にいました時にはプロパンガスがありましたが、オーブンがないからケーキやクッキーは作れないと思っていました。それを見た時、私は何でも作れると思いました。パンモイースト菌で素を作りフライパンで焼けば作れる。

日本の台所でケーキを作るには、ミキシングボールがありミキサーやカップがあり終わった後お台所はあらいものだらけです。こんなふうになっています。いかに単純に物が出来るかということをしごく学びました。カスタードプリンをよく作ってくれる、ミルクはないのでコンデンスミルクを使う。卵を上手に半分割り殻の半分はコンデンスミルク1に対して水を3倍入れて作っている。卵の殻がメジャーカップになるわけです。

一緒に出来ること、石を運ぶにも丸太を置いてすると簡単という便利なことを教えてあげる。私達は、重いからクレーン車買ってあげれば運んであげられるので確かに良いことです。たしかにクレーン車をあとで寄付をしました。された方は、ガソリンや修理は誰がしてくれるのかということになります。援助は国に合った様にして欲しい。

アジアは、みんな同じかということと全く違う、ベトナムとカンボジアは全然違います。人種が違うベトナムは、たったの6ドルでプノンペンからホーチミンまでバスで行ける。共産圏で自由経済なので灌漑や道路があり人々が一生懸命働いている。足りないのは自由です。中国人と似ていて、自分たちで全部して必要な時に私達が助けてあげ

る。カンボジア人はゆっくり育っていますから、組織も私達が後押しをしなければなら
ない。コンピューターが出来る人はたくさんいます。データベース作りなどもやら
せれば何でも出来ます。でも、誰か「こうしてください」と言ってくれる人が
いない
と何もしない、技術的には出来るが、こうすれば良い結果が出るということ
を考える
力がない。自分から将来の事を考えてやろうという人を作ることが大切です。
1年間
教えても分からないので頭に来ることが何回もありました。

質問

堀内さんが仕事をしているイエズス会サービスの先ほどビデオでチャナレ
トさん
が車椅子を作っている場所で堀内さんが今何をされているのですか。

堀内さん

あれはシナムアップといってアンコールワットで有名なところで、イエズス
会の一
つのオフィスです。シサポン・バタンバンにもオフィスがあります。車輪
各部品
はすべてプノンペンから25 km離れたところにイエズス会サービスの「メコン
車椅
子」作業所がありそこでつくられシナムリップ・シサポン・バタンバンの
各オフ
イスで組み立てているわけです。ある所でイエズス会が車椅子を組み立ててい
ます。
プノンペンから25 km離れたところにあるカンダールに身体障害者の学校があ
り
ます。そこには三つのプロジェクトがあり、一つ目は身体障害者の学校があり
1年間
100人に木工、オートバイの修理、電気、彫刻、女性にはミシンを教えていま
す。二
つ目はプロダクションといって車椅子を作っている。木工仕事を習った人は、
時間が
あれば机を作ってもらっています。一つは溶接があり、学校のブランコ、すべ
り台、
テーブルなどを作っている。三つ目は地域開発プロジェクトで、そこだけの地
域の230
ぐらいの村に行きグループを作り、貧しい村なので皆さんで話し合いをしてや

る気が

あれば手伝います。女性の方がよく働いています。

三つ目のプロジェクトですが、ここに100ドルあります。あの人に10ドル貸してあ

げて下さい。全員で決めてもらいます。その後、1ドルずつ返してもらいます。その

報告を見て次の日のミーティングでその現金を持っていきここに80ドルまだありま

す。最初はここから始めます。3回目は、皆さんが返さなかったのものでということ

で責

任を持たせる。5～6年続くと自分達でうまく出来るようになる。二つ目のプロジェクトの例ですが、車椅子を組み立てる人がいます。車椅子を

必要な人、地雷の犠牲者には病院で励ましています。開拓村は、以前アンコールワットがあ

りますから2000年は入口に並んで物乞いをしていました。外国からの観光客が多くみ

つともないということで禁止になりました。その人達の生活を考え、政府が土地をく

れたので私達がテントを全部張り、彼らに道を開かせたのです。その間に家を作れば

米を3キロずつあげました。お金や仕事もないので、何かをすれば米がもらえる、自

分達で道を開いてもらうことが目的でした。

地雷の犠牲者は全部分かりますから、そこに地雷犠牲者でなくとも貧しい人がいれ

ば一緒に援助します。家に少なくとも雨が落ちてこない屋根を作ってあげる、安くて

400ドルで出来ます。家、食べ物、水が歩いて5分以内にはない場合は井戸を掘ってあ

げる。子供達をなるべく学校に行かせたい。村に学校を作る。作っても子供が来ない

ので、来れば1ヶ月に米を20キロあげるということで、母親が米欲しさに子供を通わ

せる。大人も字が読めない人が多いので教える。必要であればタータイ病の血清など

も作ります。最近、素人が耳の治療や掃除の訓練をしています。耳の型を作り取り

つけています。

やる気がある人がいれば、新しく医療団、農業指導を立ち上げています。指

導者は、
専門の人がボランティアで来てくれる。教科書を作り先生を養成しています。
私達が
いなくなった時に自分達で出来るような先生を作り上げる。私は主にプノンペンにい
ますが、会計の人が子供を産む時は3ヶ月の休暇をあげます。その時は、会計
をして
プロダクションでは、新しい人が来るまでの4ヶ月の間は、施設を作るため穴
を掘り
砂利やセメントで埋めたりしました。

1997年に戦いがあり、タイに逃げていたカンボジア人が帰って来た2000年
に、下

調べをして欲しいということで全然知らない所に行き、何でもやりました。

事務所にはいろんな外国の人が来ます。皆さん忙しい仕事をしていますの
で、モニ
ターなどの英語のチェックをします。それが、私のやることだと思っていま
す。カ
ンボジア人が出来るようになれば私は出て行こうと思います。

質問：何人ぐらいサービスに従事していますか？

堀内さん

カンボジア人は150人ぐらいいます。身体障害者の学校があり、プロダク
ションが
給料を払うのが150人、外国人が、アイルランド、ルクセンブルグ、ベルギ
ー、スペ
イン、フィリピン、インドネシア、韓国など20人ぐらいです。神学生も来てい
ます。
哲学を終えて2年間国勢を調べて、3年間神学をして神父になります。シスタ
ーが5
~6人、私のような普通の人4人います。オーストラリアの農業指導員、香
港から
の大学で英語を教えている人、フィリピンの弁護士。カンボジアとフィリピン
だけが
難民条約に参加しています、よってイエズス会難民サービスの仕事もしていま
す。カ
ンボジアは、着いた飛行場で20ドル払えばビザがもらえますが、自国に帰れな
い、ア
フリカ、中国、アフガニスタンが多く、1番多いのはとなりのベトナムの人で
す。

質問：難民条約について教えてください。

堀内さん

私も詳しいことはわかりませんが、1953年にジュネーブで出来たと思います。国連難民高等弁務官（UNHCR）が難民と認めた人は送り返せない。ある中国人が、難民と思っていたが、カンボジアが中国政府から言われてその人を連れて送還して2人が牢に入っているという事で大騒ぎになりました。カンボジアは、条約に入っているが気づかなかった。そのため、いろんな人を隠します。

質問

この数十年間、何も制限なしに難民を受け入れる印象があるので、日本も共感しましたがカンボジアがどんどん入れてしまったのでしょうか。

堀内さん

入って来た外国人が難民であるか否かは国連高等弁務官事務所が認めるわけです。そして、認められた人には生活費をあげ、子供が3人いると英語の学校へ行かせます。私達のスタッフが学校にお金を納めに行きます。新しく難民と認められた人や認められなかった人に道を見つけたり、病気の面倒をみたりします。そういう人達は、国連高等弁務官が平日は午前8時から午後5時まで、土日は休みなので時々怒っています。私達の所は常に開いています。自殺すると言われて、夜中の12時ごろ起きて病院へ連れていき、見張りを付けたりいろんな事があります。

質問：カンボジア政府からの資金援助などはないのですか。

堀内さん

あるはずですがないです。国の予算の半分が外国からの援助です。ほとんどカンボジア政府からの援助はないのです。

質問：病院の医療費はありますか？

堀内さん

国家予算の5%で医療費がありましたが、下に行く間になくなり、薬を買い

ました
が医者^の給料^が少ない^{ので}売^{って}しま^う。福祉^{制度}があ^{って}無^いよ^{うな}もの^です。だ
からNGO^がた^くさ^ん入^った。NGO^が居^なく^なっ^{たら}普^通の^人は^生活^がで^き
ない。
問題^は、あ^まり^にも^援助^し過^ぎる^と、シア^ヌーク^国王^が「カン^ボジ^アは^物乞^い
の^国に
な^って^しま^う」と^言っ^てい^ます。フ^ンセ^ンさ^んが^日本^に来^て、「私^は寄^付を^貰
う^のが^上
手^い」と^言い^ます。そ^うい^う腐^りき^った^国で^す。で^も、若^い人^には^将来^に希^望
が^あり
ま^す。

質問：アフガニスタンでは援助物質の輸送手段が無くて、食糧が腐った例など聞き
ましたが。

堀内さん

アフガニスタンのことは分かりませんが、前に、ソマリアで被害があった時に食料
はありましたが、そこから運ぶ手段がないとか腐っているという話がありま
す。手に
届かないというのが事実で、我々は届くかもしれないが税金を取られる。

質問：物資援助と資金の寄付とどちらが良いのでしょうか。

堀内さん

寄付の方が良いかもしれない。物は、たくさん来ていますが現地の方が安く
買える。
以前カンボジアはお米の輸出国だったんです、お米は雨期に雨が降り太陽が出
れば自
給自足できます、灌漑設備と道路があればカンボジアは米輸出国になれるはず
です
が・・・。

質問：食糧の輸入なども行われているのでしょうか。

堀内さん

タイから日常つかうおしょうゆ、洗濯石鹼などほとんど輸入しています。

質問：ICBLはどのような経緯で誕生したのですか。

堀内さん

ICBLは、国境のない医師団という所で働いていた方が、南アメリカで地雷の犠

犠牲者をたくさん見ました。義足はあまり知らなかったがハンディキャップインターナショナルを作り何かをしようとして、ベトナム兵の事をしていたジョディー・ウイリアムさんと知り合い、その人が中心になりいろんな国が参加して始めました。事務所がなくすべてEメールでしました。カンボジアには多くのNGOがありますが、全部本国に呼びかけました。地雷犠牲者の関係があるNGOと一緒に活動して、私達の所が連絡場所になって各国で活動が始まりました。

質問：活動を始めて、どれぐらいでノーベル平和賞をもらいましたか。

堀内さん

たった5年ぐらいでノーベル平和賞をもらいました。下から始めて自国の政府に働きかけ、ジョディー・ウイリアムさん達がUN（国連）を動かしてそれが認められ宣伝になり、もう少し世界の地雷廃絶の意図もあったと思います。組織でもらいましたが、金のメダルを売られると困るので修道会でもある我々の金庫に金メダルと盾を入れて管理しています。

質問：支援活動に参加している日本の青少年はいるのでしょうか。

堀内さん

小、中、高校で支援活動について意見を言う人があまりいません。せっかく意見の中身があっても話さないのがすごく残念です。去年の夏に広島から高校生が5～6人来ました。私が、カンボジアの高校生を用意しますから対話しましょうと場をつくりましたが、向こうが英語で話しても何も言わないし興味を示さない。後は、作った計画についてくるだけでした。もう来ても面倒はみないと思いましたが、帰ってきた際感想文を見せていただいたら、よく見て理解したすばらしい考えが書いてありました。その人達は、パータボンを助ける会を作り、親も一緒になり2,000人ぐらいの組織で、

2万ドルとか集めていつも送ってくれます。

日本人として意見を言って欲しい、外国へ行けば意見を言わなくてはいけ
ない。そ

して、日本人として何が出来るか、支援活動に飛び回っている私達は恵まれた
ごく少

数派です。私達も犠牲者であるということを忘れてはいけません。世界は一つで
すから

自分だけ良ければいいではいけないと考えます。

質問：今、一番必要なことは何だとお考えですか。

堀内さん

カンボジアの状況を自分の目・耳で見てください。相手を理解する態度を
もって人

間関係をつくり同等の立場でよい社会を作りあげましょう。

質問：カンボジアから日本へ来ている留学生はどんな人達でしょうか。

堀内さん

日本の大学に来る人は、日本大使館で試験を受けてきます。大学院になると
カンボ

ジア政府が選びます。カンボジアでは、お金で大学にも入れる国です。唯一の
国立大

学に「政治学」というコースもないのです。私立のカレッジで「政治学」をも
うけた

が、一切政府の批判や、現在の政治のあり方をクラスで話すことは禁じられて
います。

司会者：時間がきましたが、最後にこれだけは聞いておきたいこと

堀内さん

皆さんの前では聞きにくいので後でもいいです。若い人にはぜひ自分の意見
を言っ

てほしい。何か感想でもいいです。

質問

NGOの関係でカンボジアには行った事がありますが、ベトナムから飛行機
で行く

途中に知り合った人で、日本語がすごくうまい外国人で地雷のことも勉強して
いきま

した。町中の市場で足のない人がいて、向こうの人は、普通に座って物を売っ
ていま

した。足がない人はここだけではなくて、沢山見ました。皆から話を聞きました
が、

足のない人がいて当然で、そういう人も働いていかなければ食べていけない。

アンコ
ールワットに行った時も、そこに住んでいる人がいて、ここは、観光客が多いので物
乞いをして暮している。そこで、むりやり案内されて1ドルガイド料を取られました。

堀内さん

子供もうまいです。ドイツ人だとドイツ語で、フランス人は、フランス語、日本語
も話します。後から買いますと言うと、今買ってくれないうそつきだと言われた人も
います。

司会者

時間がきましたので、これで、いったん閉めます。
先ほどお話しました様にこの後1階の部屋でおすしを食べながらもう少しお話を
して
いただきたいと思います。14人分のおすしは買ってありますが他にいましたら
一緒に
どうぞ、一つお願いがあります。堀内さんはこういう形で全国を回っていま
す。どん
な小さなグループでも無料で行きますということで来て下さいました。私達ユ
ネスコ
協会としても車代ぐらいは、なんとかしたいと思います。まもなくカンボジア
に帰
ります。先ほど車椅子の話がありましたが、お帰りの時に、受付に箱があります
ので志
で結構ですので寄付をお願いします。今日は、長い間どうも有難うございました。

(拍手)

22/22